

全国高等学校美術工芸教育研究会

第69回近畿地区府県代表者会議（大阪）

参加者： 全国美工研 理事長 永吉先生、 兵庫県（2名）、三重県（1名）、滋賀県（2名）、大阪府（8名）
全国美工研 事務局長 甲斐先生、 奈良県（2名）、京都府（2名）、和歌山（1名）、大阪私学（3名）

1 日 時 令和7年2月7日(金) 14:00～15:00

2 会 場 集合型開催 大阪成蹊大学

3 会 議

(1) 開会 挨拶、日程の説明

(2) 14:05～15:00 講演 「デザインの今」
・大阪成蹊大学芸術学部 造形芸術学科教授 糸曾賢志氏による講演

糸曾賢志氏 教授紹介
(大阪成蹊大学 HP)



(3) 15:00～16:30 代表者会議

収入を得るための4つの区分

E: Employee (従業員)

S: Self employed (自営業)

B: Business owner (事業主)

I: Investor (投資家)

ES: BI=9:1

→学生に重要なこと。

これら全てを経験した者として

様々な視点から教鞭をとられる。

(2) 情報交換 各府県の現状及び課題

①大阪府

■採用1名。第一志望、第二志望が申請できる、中学校に行く者も多く、高校希望者は少ない。■公務 PC のシステム変更で混乱中。
■研究会は大阪大会に向けて動き出した。研究会を気軽に脱けたい若者、ジェネレーションギャップありつつも、研究会の良い面を共有していきたい。■教育委員会への要望書は毎年提出、にもかかわらず今年は書道の採用0。出し続けることに意味。
■1月に大高芸研の研修行なった。芸術科全体の繋がりを深め、専任不在も支え合っている。
■来年度高校展はようやく、改修を終えた大阪市立美術館に戻り盛り上がりを見せる。私学との連続開催なので連携を深めている所。高校展は元々”全大阪”という展覧会が元で私学公立共同展だった。中学を抱える私学の事情で別れた。歴史は深く続けていきたい。

②兵庫県

■総合文化祭、私学は私学のみでやっているが、これは全体で参加を募る。美術専任が減っている。全体の半分。運営は美術教諭で行なっているが厳しい。生徒交流ワークショップでは、描いて回してリレー式の絵画を行なったが、生徒の反響はよかった。会場は一般来場者も多く◎■支部は7つに分かれている。西播、但馬は教諭が1人！年に2回ある研究大会の参加が難しい。組織のあり方が問われている。■14校が統廃合。■要望書は数年途切れたが、今年度から出していく。

③奈良県

■8月奈良大学で研修。絵巻物を扱う実習。■学習指導研究会では「美術I」公開授業でインクルーシブ授業。■展覧会「アートグランプリ」は240点出品、過去最高。■教諭配置校は10校、教諭15名。産育休で休んでいる者も多い。■奈良県文化開館をはじめ、展示施設の取り壊し、県内の美術作品展示場が減っており、代替え施設もない。美術以外の分野からも県へ要望が出ている状況。

④滋賀県

■部会員39名。長く臨時講師をした人が、3年連続で合格。少し前が自分でそれも15年待った。コンスタントに採用が欲しい。
■教諭13名、臨時講師7名、非常勤講師26名。足りていない。■4科とも非常勤が増えている。■教員展は毎年開催。16名参加。交流の場になっている。

⑤三重県

■新採(R7)は2名。去年2名、一昨年2名、ここからは5年程前になる。10～15年待ってようやく採用。採用は縮小傾向に。
■研修会は年2回。今年は美術部の指導経験豊富な教諭による混合技法。生徒それぞれの良さを活かした指導をされる。三重大学教授による「地域とアート」地域連携型探求活動の授業見学なども行なった。■研究会は3ブロックに分けて活動していたが、南西エリアが立ち行かないため、今年度南北に分けた。展覧会も混乱したが実現した。持続可能な活動を現在模索中。横のつながりを大切にしたい。
■助成金を申し込んでいる。研究会に対してお金が降りないようになってきた。

⑥和歌山県

■例年は事務局長2名の参加。→旅費の事情で1名ずつ。
■2014年以降は新規採用がほぼ行われていない。統廃合多く、今後も専任教諭が減らされる。
■研究協議の研修

⑦京都府

■研修は年4回行なっている。生徒向けはウィンターアートキャンプ1回。東京や関西美大の教授に指導してもらう。
■京都府学校文化芸術祭、小中高の美・書が一堂に会する大規模展覧会。今後も継続を希望するが予算の出所が厳しい。今後も京セラ美術館で続けたいが、参加校も減少傾向で過渡期である。■研究会報、3名の教諭による授業実践。■採用はここ2～3年1名ずつある。生徒数減少地域では専任教諭が2校もしくは2学舎兼任の現状である。担任の場合、1、2限目に他校で授業→自校で終礼など。部活動も合同でみる。特に北部は定員割れは当たり前、芸術への理解が多い地域でもあるので音美書の専任をキープはしてもらえが、兼任で賄うという状況。

(3) 近畿地区府県代表者会に関して(会則・分担金の確認・会議形式について等)

会則は別紙を確認

次回(夏季)開催について【大阪府】

日時： 令和7年7月4日(金) 場所：大阪府立港南造形高等学校

※ 夏はzoomにて実施となります。 13:30～15:00

(4) 令和6年度近畿地区府県代表者会議分担金(5,000円)の納入について

・9月中旬頃に請求書。・ゆうちょ銀行への振り込み・領収書はデジタル印データ発送

(5) 第8回近畿美術館博物館・美大研修

8月上旬の平日で検討。

日時： 令和7年8月日(金)・8月日(土) 検討中

場所：① 大阪市立美術館(令和7年3月1日リニューアル)天王寺駅近隣

ゴッホ展 家族がつないだ画家の夢

(会期：2025年(令和7年)7月5日(土)～8月31日(日))

② 大阪芸術大学(梅田よりバスで移動、最寄り喜志駅)

アートサイエンス学科 実技体験

(6) その他

【本部より】

■京都の会計事情をふまえて、
現在、全国美工研の繰越金は190万円ある。あまりよくない状況。
2年くらい分担金をとらず、2年後に見直し費用を提示するなど、現在検討中。

➡(ご意見)一旦分担金をとめると、復活させる時の根拠が必要。
それがかなり苦しくなる可能性があるので、慎重に検討してほしい。

■R7の芸大研修 → 金属鍛金 8月11日、12日 どちらか

■関東地区代表者会議は群馬以外は出席

■全国芸術科研究会4科合同で要望書を提出の予定
→文化庁から論点整理が出たため、目を通してから提出することに。

【理事長より】

■全国大会は是非開催して欲しい。予算的にも200～300万集まり、その後の運営もやりやすくなる。
内容としては、総会、都道府県代表者会議は必須、それ以外は都道府県独自で構わない。

➡(質問)大会の残預金の扱いは？
→残預金は開催地のもの。東京では研修費や出張旅費に使用。

★全国大会 2025年(R7)新潟 → 2026(R8)大阪 → 次が未定！近畿で開催地立候補ありませんか？

(7) 連絡

*事務局任期・・全国大会以降の冬期から夏期の1年間

大阪(2025)-兵庫(2026)-奈良(2027)-滋賀(2028)・京都(2025)

【情報交換など】

■(三重県より)他府県は遠隔授業についてどのように対応しているか？20人以上のオンライン受講生徒がいる。
IT機器トラブルで職員室も混乱気味。30欠以上の生徒には学校から遠隔授業の案内がいく。

➡(ご意見)これは全国校長会でも意見が別れている。積極的に進めない雰囲気になっている中、20名も受け入れは驚き。